

# オーストラリアの“聖なる母” グラガ山の恵みがもたらす“変容の旅”

「ヒマラヤン・フラワー・エンハンサーズ」創始者のタンマヤ氏が、昨年10月、4年ぶりに来日。オーストラリアの東海岸にある神聖な山「グラガ山」で採取されたオレンジ色に輝くキノコ「グラガ」の他、計8種のエッセンスを体験するワークショップを開催しました。

参加者1人ひとりが、内なる世界を探索し、変わりゆくマインド体験をした様子をフラワーエッセンスに精通している自然療法ジャーナリストの樋渡 志のぶさんがレポートします。

取材・文◎樋渡志のぶ



30年以上前からフラワーエッセンスを作る、タンマヤ氏によるワークショップ。

## 世界自然遺産の宝庫 オーストラリアで生まれた フラワーエッセンス

透き通ったアクアブルーが果てしなく続く世界最大のサンゴの楽園「グレートバリアリーフ」。数千年前に描かれた動物や人間のユニークな岩壁画で有名な「カカドゥ国立公園」など、世界自然遺産が12カ所もある広大な国・オーストラリア。何万年も前から自然と調和して暮らしていた先住民「アボリジニ」が大事にしてきた神聖な場所も各地に残されています。

そのひとつ、オーストラリア南東部・ニューサウスウェールズ州の海岸地域に位置するグラガ国立公園・グラガ山で作られているタンマヤ氏の「ヒマラヤン・フラワー・エン

ハンサーズ」※1と同じ手法で作られた「グラガ トランスフォーメーションキット」※2は、目まぐるしく変わり続ける新時代を生きる私たちにとって、過去への執着を手放し、今求められる変容の力を助けてくれる頼もしい存在です。

## 地上でもっとも若い山脈 ヒマラヤの谷で花々と語る

タンマヤ氏がエッセンスを作るときつかけとなったのは、1990年に人生最大の転機に直面したことでした。母国、オーストラリアを離れて旅に出かけ、インド・ヒマラヤの人里離れた谷に滞在し、山でのシンプルな生活を続けていました。水を汲み、木を切り、身近なハーブや植物を食べ、歩いたり、瞑想をして自

## アボリジニの聖地・グラガ山

インドで約13年過ごしたタンマヤ氏は、グラガ山の近くに引っ越し住むことになりました。そして、母国の花々で「フラワー・エンハンサーズ」作りにも取り組み始めました。若く険しいヒマラヤの山々に対し、標高が1000mのグラガ山は6000万年以上前の古い活火山であり成熟した山です。地元ではその柔らかく美しい曲線から、女性が横たわっている姿に例えられているそうで、アボリジニの聖地として「母なる山」として讃えられてきました。周辺の海には、ドルフィンが泳ぎ、点在する巨岩「スネーク・ロック」や「ホエール・ロック」は聖なる岩、豊かな水が生命を与える神（虹の蛇）レインボー・サーペント）として大切に守られてきました。

次に、30年以上前からフラワーエッセンスを作り始め、リサーチやワークに献身的に活動が続いているタンマヤ氏の最新ワークショップの様子をお聞かせします。



## 「グラガ 変容の旅」 ワークショップスタート

タンマヤ氏は参加者が自然にるときを待ちます。そして参加員の身体と心と魂が一緒に在るを意識化し、それぞれの旅に準備が整ったときにワークショップが始まりました。

「今日は、自己探求を深める性で進めていきます。ガイドとして、実際にエッセンスを皆さんに配ながら、内なる世界を探索していきましょう努めます」。タンマヤ氏の着いた声は身体に響き渡ります。悠久の歴史を携えたおおらかなラガ山で育った花々やキノコの花々を「シナジー」。円座で並加者の口の中に、エッセンスを

ヒマラヤでフラワーエッセンスを採取するタンマヤ氏。花を手摘みしてピュアな湧き水でエッセンスを作る。



然の中に身を置くと、自身が静寂化し感覚も敏感になり、花々の話が聞こえてくるようになりました。「静かに座って、私たちがゆつくりと味わってその効果を感じてみて」と語りかけられ、人間が生まれつき持っている完全性に対する認識を高める「フラワー・エンハンサーズ」として、多くの人間の役に立ててほしいと願っていることが分かりました。

フラワーエッセンスは、1930年代、英国のエドワード・バッチ博士によって体系づけられました。私たち誰もが持つ憂鬱、心配、恐れといった感情の不調和を癒すことで、身体に病気が入り込むのを防ぎ、人生そのものがより幸せで楽しくなるように使われてきました。

時は流れ、自然を取り巻く地球環境

## Profile

タンマヤさん オーストラリア南部郊外生まれ。「ヒマラヤン・フラワー・エンハンサーズ」の作り手として、各地でセミナーを開催し、リサーチやワークを通して世界中で活躍している。

ヒマラヤで作られたエッセンスは、外部のさまざまな情報に単に拒否反応を示すのではなく、内面はぶれずに柔軟に関わり合うことを容易にしたり、集中力を強化してくれたり、調和のとれた状態へと促します。

ある参加者は、「以前は動揺しや



### トランスミューテーション

Transmutation

[学名] *Sprechia formosissima* var. *karwinskii*

自分の殻から飛び出すために役立つ。蝶の変態のあらゆるシーン、葉の上を散歩する毛虫→空中で風に舞う蛹→美しい蝶というように、想像もつかない新しい何かを出現させる助けになる。



### グラガ Gulaga

[学名] *Fungi*

人生の変容をパワフルに促し、自分自身の人生の目的にしっかりと合致した生き方をサポート。くり返してしまう過去の行動パターンに気がつき、まるで脱皮するかのように前進する勇気を助けてくれる。



### スパイダーファンガス Spider Fungus

[学名] *Anthurus archeri*

誕生に伴う原初的な傷や欠乏に伴う痛みに対応。特にセクシャリティーに関連した「第1チャクラ」の主要な傷や機能不全を明確にする。今にも動き出しそうな蜘蛛に見えるが不動のキノコ。



### シナジー Synergy

[学名] *Armillaria Luteobubalina*

お互いの結びつきと協調感覚を高めてくれる。一期一会の出会いがもたらす喜びを素直に感じやすくしてくれる。太陽色を携えたキノコが愛らしく寄り添い、お互いの出合いを喜んでくれるようにもみえる。



### フェニックス・ライジング

Phoenix Rising

[学名]

*Archontophoenix cunninghamiana*

不死鳥のごとく過去という灰の中から蘇るのを助ける。過去、感情・精神・肉体面の古い習慣や無意識のうちに受けてきたトラウマを手放し、新たなスタートを切ることを助けてくれる。  
※グラガ山の斜面に20数年ぶりに咲いたバンガロー椰子の花。



### リパターニング Repatterning

[学名] *Cymatoderma elegans*

新しい情報に臆することなく、心を開いて受け入れ、今までのパターンを良い意味で再構築するのを助ける。このキノコの幾何学模様は美しいパターンをくり返しながら、過去と未来を美しく紡いでいるよう。



### グラガ オーキッド Gulaga Orchid

[学名] *Dendrobium speciosum*

許しの心を開くのを助けてくれる。多くの人は、自分自身や身近な人、過去や未来の出来事からもたらされる辛い感情を抱えている。その心の痛みの原因となっているあらゆる存在への許しをもたらす。

## ワークショップで用いられたエッセンス

と2滴ずつ配るタンマヤ氏。その光景は、まるで親鳥に餌をもらう雛鳥のような面白い画ですが、皆さん真剣に味わいます。  
「シナジー」は、一期一会を大切にしているエッセンス。摂取後は、参加者の顔の緊張がほぐれて明るさが増えました。みんなそれぞれいろいろな人生を歩んでいるけれど、同じ目的を持って集まった縁に改めて感謝。参加者同士が自然に挨拶しあう爽やかなひとときとなりました。  
2本目は「トラッキング」。集中すべきことへの洞察を深めてくれるエッセンスです。タンマヤ氏が初めてこの花を見たときに思い出したの、その2年前に訪れた南米ペルーのシャーマニックな旅での体験でした。

た。素朴な草小屋で寝泊まりをする際に、毎晩身体はどこかに留まって一緒に寝る虫にそっくりな花でした。「なんだ、君はここにいたのか!」と思わず声を上げたそうです。ペルーではこの虫の導きがあったおかげで、癒しが必要な部位に集中できたという体験談は微笑ましく、どの昆虫も植物の一部であり、かけがえのない仲間であることを思い出させてくれます。  
3本目は「スパイダーファンガス」。エッセンスを頭頂に垂らした後、アポリジニの楽器「ディジュリドゥ」の大地の音を聞きながらの瞑想タイム。ただひたすら音に身を委ねていくうちに、大地とのつながりを感じる心地良い時となりました。



### トラッキング Tracking

[学名] *Ochma serrulata*

自分自身やクライアントの問題を明確にし、集中すべき点にピンポイントに誘うので、より一層、自己探求が深まり、内面の洞察力を高めてくれる。2年前ペルーの自然の中で出会った虫にそっくりな姿だったそう。

4本目は「グラガ オーキッド」。白い妖精のような愛らしい姿をした蘭の花を撰る前に、自分の「良いところ」と「嫌いなところ」をリストアップ。普段は直視していない自分を客観的に見つめ、心の痛みの要因となる執着を手放すのを助けます。  
インドで長年静かな生活を送っていたタンマヤ氏にとって、瞑想は切り離すことができない日常習慣の一部。一方で、身体を動かすエクササイズも入ります。ランチ後の眠気の誘惑たつぷりの時間帯では、大音量のダンス音楽とともに皆で思いっきり身体を動かします。静と動のバランスが取れているのもタンマヤ氏のワークショップの魅力の一つです。

### グラガ山初のフラワーエッセンス キノコからつくった「グラガ」

5本目の体験は「グラガ」です。1990年代の夏至の日食の日、「人生は私に何を望んでいるのか?」という問いを持って、瞑想のために山に入ったタンマヤ氏。登頂付近を一人で歩いていると、大きな「妊婦の

リスタル法などでエッセンスを作っていますが、このキノコに溜まった水を舐めてみたところ、地球や宇宙とつながる感覚を得られたそう。既存パターンを保有しながらも再構築をくり返すキノコ類は花々とは違う効果があります。  
7本目は「トランスミューテーション」。2016年1月のスーパームーンに作られ、変革に近い働きがあります。真っ赤な花が自分の殻から飛び出す勇気を後押ししてくれるようです。ここで再びダンス・エクササイズ。命が自分の身体を通して呼吸をしている感覚を思い出しながら、いよいよ最後の8本目。新作の「フェニックス・ライジング」は、2020年12月冬至、グラガ山の斜面に20数年ぶりに咲いたバンガロー椰子のエッセンスです。その名の通り、「不死鳥」のように過去という灰の中から蘇り、新たなスタートを

切ることを助けてくれます。変容の旅もいよいよ終わりが近づいてきました。8種類のエッセンスを体験しながら、内面の変化を見つめる豊かなひとときとなりました。タンマヤ氏も、自分がしがみついていたものを直視することは辛い時間だったといえます。けれど、その体験は、故郷グラガ山でのエッセンス作りのきっかけとなりました。何かを新しく生み出すときは、苦しみを伴うことも多くあるのでしょうか。生きていくと辛いことや悲しいことも、そして人間が抗うことのできない厳しい現実と直面することもあります。「フラワー・エンハンサーズ」は、人間の光の側面にフォーカスしながら、それを乗り越える勇気をサポートしてくれる頼もしい存在です。これからの人生の旅の中で、実際にエッセンスを撰りながら変容の旅を続けたいと思います。



ワークショップ参加者の口の中にエッセンスを垂らしたタンマヤ氏。



### Profile

樋渡志のぶさん

ひわたりしのぶ クブクブ アロマテラピー&フラワーエッセンス・自然療法サロン&スクール主宰。各種施術の他、自然農や食など環境関連の各種セミナーや執筆活動にも取り組んでいる。